

平成 29 年度 再々評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	寝屋川流域環境整備事業
担当部署	都市整備部河川室河川環境課環境整備グループ（連絡先 06-6944-9306）
事業箇所	寝屋川市幸町地内 外
再々評価理由	再評価実施後 5 年間を経過
事業目的	寝屋川市は住民意見を取り入れ、全体計画や重点整備計画、市民・行政の役割分担などをまとめた「寝屋川再生プラン」を策定し、市街地の貴重なオープンスペースを活かしたまちづくりを官民協働で進めている。本事業はこれを基に寝屋川市が作成したかわまちづくり計画に基づき、学習を含めた利用活用や市民による維持管理を踏まえた河川空間整備を実施するものである。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 幸町地区：公園と一体となった親水空間の整備 親水護岸整備 右岸 L=250m 打上川治水緑地下流：遊歩道や桜並木など水辺空間の整備 親水護岸整備、高水敷整備 両岸 L=200m 墓地公園前：水と触れあえる親水空間の整備 階段護岸（今後ワークショップを通じて詳細を確定） 右岸 L=100m
事業費 （ ）内の数値は 前回評価時点のもの	全体事業費：約 5.0 億円 （約 15.0 億円 ※今回の再々評価の対象となる親水空間整備は 5.0 億円） [国：2.5 億円、府：2.5 億円] (内訳) 調査費等約 0.40 億円 (約 0.40 億円) 【工事費の内訳】 工事費 約 4.60 億円 (約 4.60 億円) 幸町地区 約 3.2 億円 (約 3.2 億円) 打上川治水緑地下流 約 0.9 億円 (約 0.9 億円) 墓地公園前 約 0.5 億円 (約 0.5 億円)
事業費の変更理由	前回は「親水空間整備」と「河川水質浄化（浚渫）」を対象として再評価を行ったが、今回は大阪府建設事業評価実施要綱に準じ、「親水空間整備」のみを内部評価の対象としたため。なお、「親水空間整備」については、事業費の変更はない。
維持管理費	必要なし

2 事業の必要性等に関する視点

	【再評価時点 H24】	【再々評価時点 H29】	【変動要因の分析】
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	○都市部の貴重なオープンスペースあるいは生物の生息拠点等として近年、見直されつつある河川の多様性・重要性を考慮し、ひとと川の関係の回復及び生態系への配慮を目指した川づくりを行っていく。	○都市部の貴重なオープンスペースあるいは生物の生息拠点等として近年、見直されつつある河川の多様性・重要性を考慮し、ひとと川の関係の回復及び生態系への配慮を目指した川づくりを行っていく。	
地元等の 協力体制等	地元市である寝屋川市のかわまちづくり計画に沿った整備を進めており、地元住民からの整備要望も高い。また、工事の実施にあたっては、計画段階から官民協働のワークショップにおいて住民意見を反映させたものとしており、着手後も工事の進捗にあわせてワークショップや現場見学を行うなど、地域に親しまれる空間となるよう意見を取り入れながら推進している。		
	【再評価時点 H24】	【再々評価時点 H29】	【変動要因の分析】
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	[効果項目] 生態系の保全 景観の改善 水辺利用の場の提供 [分析結果] B/ C=9.03 B=45.13 億円 C=5 億円 [算出方法] 国土交通省河川局河川環境課 「河川に係る環境整備の経済評価の手引き」 (平成 22 年 3 月) [受益者] 近隣住民 ※今回評価において、H24 時点の費用便益分析を行ったものを記載。	[効果項目] 生態系の保全 景観の改善 水辺利用の場の提供 [分析結果] B/ C=9.14 B=45.69 億円 C=5 億円 [算出方法] 国土交通省河川局河川環境課 「河川に係る環境整備の経済評価の手引き」 (平成 22 年 3 月) [受益者] 近隣住民	寝屋川市内の世帯数の増加に伴い、便益が増加。

事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	[効果項目] 良好な環境・景観の形成が図られる	[効果項目] 良好な環境・景観の形成が図られる	
事業の進捗状況 <経過> ①事業採択年度 ②事業着工年度 ③完成予定年度	①H16年度 ②H17年度 ③H56年度	①H16年度 ②H17年度 ③H56年度	
<進捗状況>	・工事 88%	・工事 88%	
事業の必要性等に関する視点	事業の必要性について変化がないため、事業を継続する。		

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	上位計画に変更がなく、事業を継続する。
--------------	---------------------

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	本事業はワークショップを通じて詳細な整備内容を確定するため、今後コスト縮減が図られる可能性がある。
---------------------	---

5 特記事項

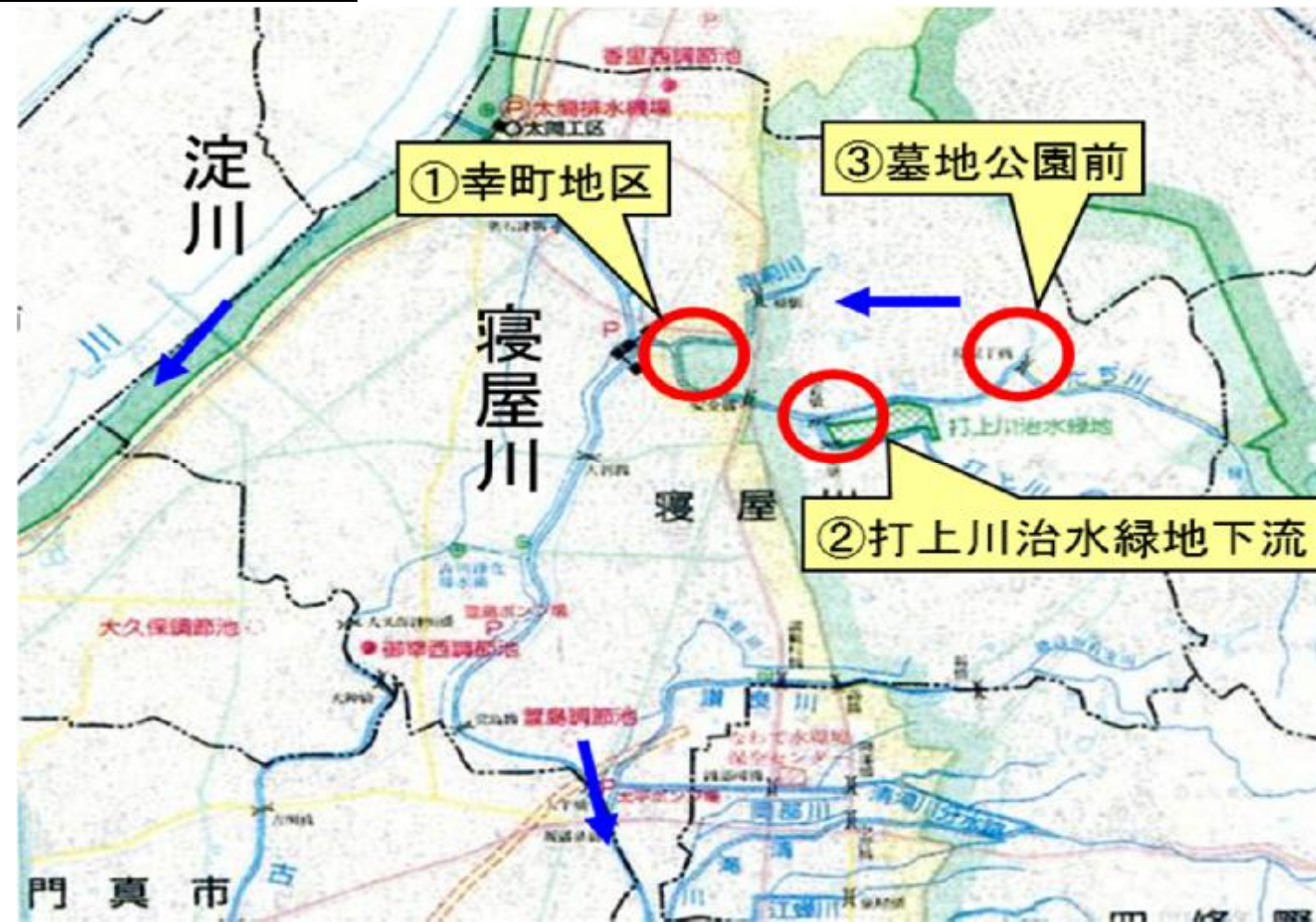
自然環境等への影響とその対策	ワークショップを通じて自然の生き物とふれあえるような親水整備を進めている。
前回評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	—
上位計画等	【上位計画】 「淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画」（H27.3）
その他特記事項	—

6 評価結果

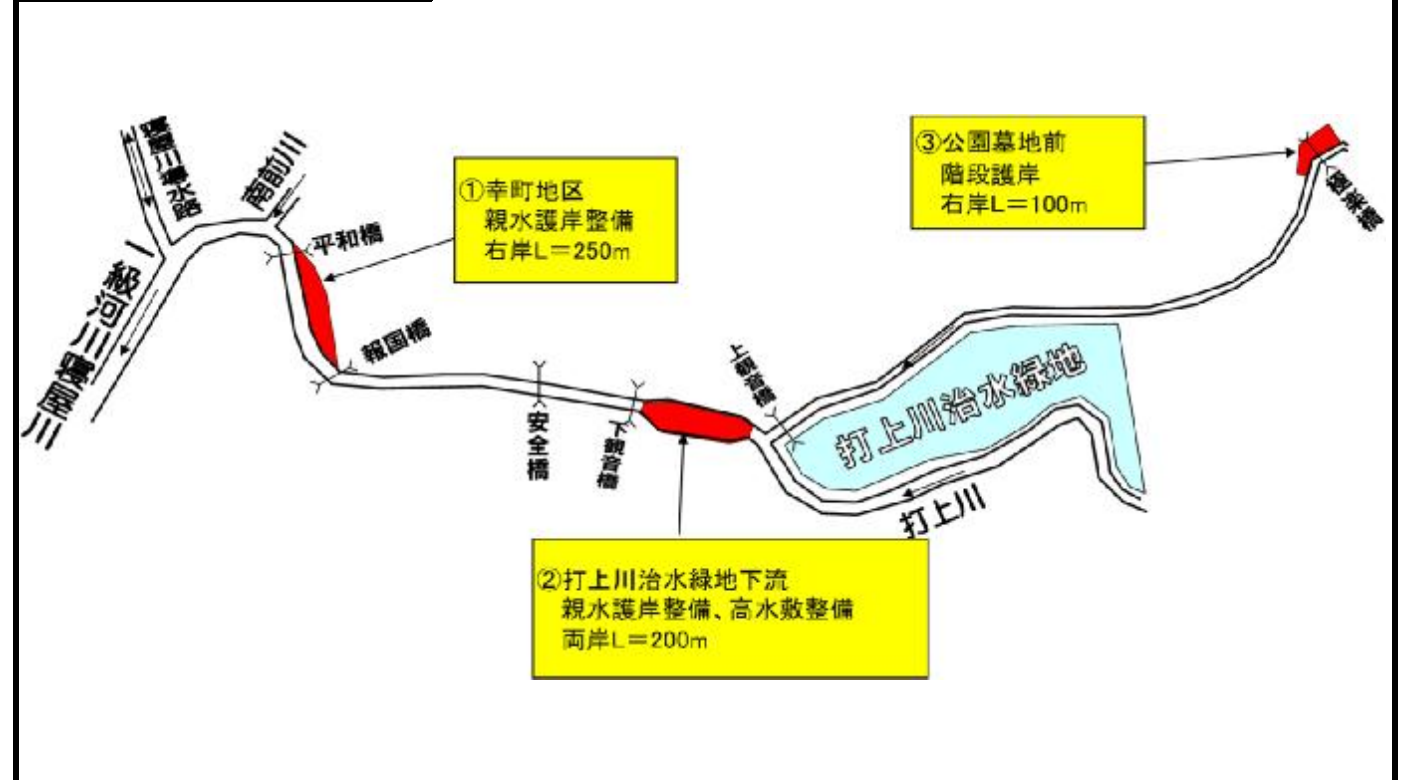
評価結果	○事業継続 <判断の理由> 事業の必要性や上位計画に変化がないことから、事業を継続する。
------	--

平成29年度 再々評価 (寝屋川流域環境整備事業)

事業箇所図

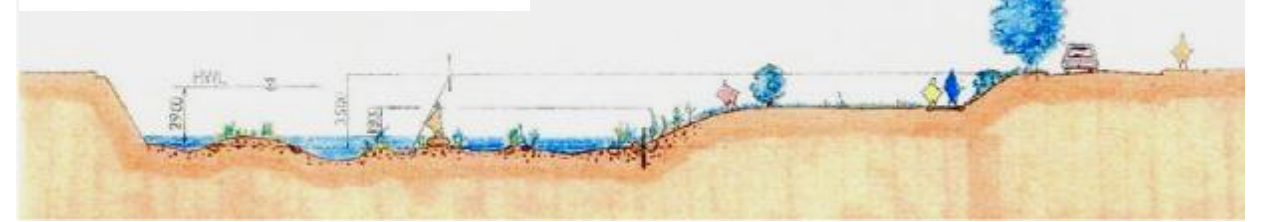


平面図

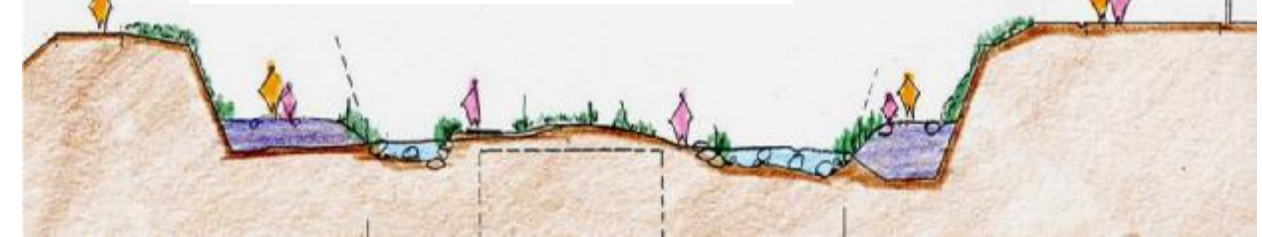


標準断面図

標準断面図 (①幸町地区)



標準断面図 (②打上川治水緑地下流)



標準断面図 (③墓地公園前)



現況写真

①幸町地区



②打上川治水緑地下流



③墓地公園前

